

1. 岡山大学の理念、目的等

1 岡山大学の理念 “高度な知の創成と的確な知の継承”

人類社会を安定的、持続的に進展させるためには、常に新たな知識基盤を構築していかなねばなりません。岡山大学は、公的な知の府として、高度な知の創成と的確な知の継承を通じて人類社会の発展に貢献します。

2 岡山大学の目的 “人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築”

岡山大学は、「自然と人間の共生」に関わる、環境、エネルギー、食料、経済、保健、安全、教育等々の困難な諸課題に対し、既存の知的体系を発展させた新たな発想の展開により問題解決に当たるといふ、人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築を大学の目的とします。

このため、我が国有数の総合大学の特色を活かし、既存の学問領域を融合した総合大学院制を基盤にして、高度な研究とその研究成果に基づく充実した教育を実施します。

3 岡山大学の目標

(1) 教育の基本的目標

岡山大学は、大学が要請される最重要な使命である教育活動を充実させます。

これまでの高度な研究活動の成果を基礎として、学生が主体的に“知の創成”に参画し得る能力を涵養するとともに、学生同士や教職員との密接な対話や議論を通じて、個々人が豊かな人間性を醸成できるように支援し、国内外の幅広い分野において中核的に活躍し得る高い総合的能力と人格を備えた人材の育成を目的とした教育を行います。

(2) 研究の基本的目標

岡山大学におけるあらゆる活動の源泉は、先進的かつ高度な研究の推進にあります。

常に世界最高水準の研究成果を生み出すことをその主題とし、国際的に上位の研究機関となるよう指向します。

(3) 社会貢献の基本的目標

社会が抱える課題を解決するため、総合大学の利点を活かし、大学の知や技術の成果を社会に還元すると同時に、積極的に社会との双方向的な連携を目指します。

(4) 経営の基本的目標

研究、教育の目標を効果的に達成するため、大学に賦存する人材、財政、施設設備などの資源をトップマネジメントにより戦略的に利活用します。

(5) 自己点検評価の基本的目標

公的機関として社会への説明責任を果たすため、研究、教育、社会貢献、管理運営のすべての分野において不断の自己点検評価を実施し公表するとともに、その結果を的確に大学改革に反映します。

【参 考】

岡山大学管理学則

(大学の目的)

第10条 本学は、広く知識を授け深く専門の学芸を教授研究して、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、日本国家及び社会の有為な形成者を育成するとともに、学術の深奥を究めて、その成果を広く社会に提供することにより、世界文化の進展に寄与することを目的とする。

2. 岡山大学理学部の教育の方針、ディグリー・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

1 教育の方針

教育の基本的目標

理学部は、数学、物理学、化学、生物学、地球科学の各分野でなされる最先端の研究を基盤とした教育を通し、学生が自然科学の専門知識と技能、考え方を修得し、それらを生かして“知の創成”に主体的に参画し得る専門力と探究力を身に付けることを目指します。また、探究活動における学生同士や教職員との密接な対話や議論を通して相互理解を深めるコミュニケーション力を高め、さらには主体的な学習姿勢、創造的思考、分析能力、豊かな人間性などの教養力を醸成します。これらの能力を活かして、科学的な知識と考え方で課題解決に取り組み、国内外の幅広い分野において中核的に活躍し得る総合的能力と人格、すなわち実践力を備えた人材の育成を目標とした教育を行います。

養成する人材像

教育の基本的目標に基づき、実践力・探究力・コミュニケーション力・専門力・教養力を備え、科学的な知識と考え方で新たな価値創造と世界の革新に貢献できる「主体的に変容し続ける先駆者」を養成します。

身につけた自然科学の知と科学的な探究力を活かして、自ら学び自ら行動する実践者

以下の、5つの力を持つ人材を養成します。

- 自ら進んで、課題解決に挑む実践力
- 自ら問うて、課題を見出す探究力
- 語り聴くことを通して、差異から学ぶコミュニケーション力
- 基礎的かつ体系的な専門力
- 自然や社会に関心を持ち、学びを習慣化する力（教養力）

これを踏まえ各学科が具体的に掲げる「養成する人材像」は以下の通りです。

数学科：現代数学の成り立ちを踏まえた高度な思考能力を身につけ、将来大学院へ進学して学問の進歩に貢献できる人材、教員となり数学の考え方を生徒に伝える人材、企業や公官庁等で活躍できる人材

物理学科：物理学の基本概念と方法論を修得することにより、科学の発展に寄与し、社会に貢献できる人材

化学科：あらゆる物質を対象とし、その物性、構造、反応についての実験と理論に関する教育を通じて、広い視野と高い研究能力を身につけ、専門知識を生かして新しい分野に積極的に挑戦できる研究者、並びに、教育など社会の諸分野で活躍できる人材

生物学科：現代生物学の基礎知識と生命現象を多様な視点から解析する能力を身につけ、その知識と能力を活用して社会と科学の発展に貢献できる人材

地球科学科：自然科学の様々な分野の知識をもとに地学現象について研究する能力を修得し、地球科学に関連した課題の解決に寄与できる人材

2 ディグリー・ポリシー

理学部は、先に掲げた人材を養成するため、所定の期間在学し、以下に掲げる力を身につけ、所定の単位を修得した学生に学位を授与します。

修得できる力：実践力・探究力・コミュニケーション力・専門力・教養力

【実践力】自ら進んで、課題解決に挑む実践力

課題と向き合い、国際的な舞台で、科学的な知識と考え方で解決に向けて行動することができる。

【探究力】自ら問うて、課題を見出す探究力

多角的な視点で対象を把握し、論理的思考により課題を明らかにすることができる。

【コミュニケーション力】

語り聴くことを通して、差異から学ぶコミュニケーション力科学的な考え方で論理的な説明ができ、他者との議論を通して物事を理解し自らを高めることができる。

【専門力】

基礎的かつ体系的な専門力各学科それぞれの専門分野を学ぶことによって、様々な自然現象の背後にある普遍的な法則や原理を理解するとともに、修得した知識や技能を体系的に組み立て、様々な問題を発見し、その解決に意欲的に取り組むことができる。

【教養力】

自然や社会に関心を持ち、学びを習慣化する力（教養力）自然や社会のさまざまな事象に好奇心を持ち主体的に学び続けることができる

3 カリキュラム・ポリシー

卒業認定・学位授与の方針（ディグリー・ポリシー）で掲げた力を修得した人材を養成するため、理学部として以下の方針及び考え方にに基づき、教育課程を編成し、実践します。

教育の実施方針

持続可能社会の実践に向けて学生が主体的に学び成長し続ける能力を育成する教育を実施します。

教育内容の考え方

主体的・対話的で深い学びの視点から、「教員が何を教えたか」から「学生が何をできるようになったか」を重視して、以下の教育内容を提供します。

【共通教育】

全ての学生に共通して求められる汎用的技能の育成を目指し、他の学生と学び合う、共に育ち共に創る実践的な活動を提供します。

自身の考えと異なる人との対話や協働を進めるために必要な知識や技能を身につけるカリキュラムを提供します。

【専門教育】

専門領域の内容を体系的に提供することによる深い理解と、異なる専門領域の知識を統合したり、創造したりすることができる機会を提供します。

専門科目においては、専門分野の知識や技能を初年次から体系的に修得します。さらに、修得した専門知識を自ら実践・確認し、より深く理解できるようにするための演習や実験、課題研究に取組み、社会の要請に応える自然科学の専門知識と課題発見・問題解決の実践的な能力を身につけます。また、専門基礎

科目や理学部共通科目などにおいては、異なる専門領域にまたがる統合的、学際的な知識や技能を身につける機会も提供します。

【言語教育】

グローバル社会を生きるうえで必要とされる語学力を伸ばす教育を提供します。

聞く、読む、話す、書くを統合した総合力を伸ばすために必要な英語を、異文化理解の科目群を通じて言語を学ぶ初修外国語を、留学生には日本語を、それぞれ学ぶ機会を提供します。専門教育においても、専門分野の学びや研究活動を、英語を用いて実践する機会を提供します。

教育方法の考え方

前述の教育内容を以下の方法で提供します。

- ① 理学部では、各学科とも専門分野を体系的に学ぶため4年間の一貫した教育コースを設定しています。また、各学科の開講科目を中心に履修し高い専門性を習得するための「専門力プログラム」の他に、科学の最先端で活躍できる研究者・技術者・教育者を目指すための「フロンティアプログラム」(フロンティアコース、フロンティアサイエンティスト特別コース)、学科横断的に学際領域を幅広く学び新しい研究分野で活躍することを目指す「学際プログラム」(理学系数理・データサイエンスコース、複合領域科学コース)を加えた3プログラムを設定し、学修者は個々の志望に合わせた主体的な学びでディグリー・ポリシーに掲げる学士力を身につけていきます。
- ② 各学科の履修プログラムで定められた卒業要件を満たすように、1年次から4年次までの必修科目・選択必修科目・選択科目を履修することにより、各学科の専門分野の知識や技能・考え方を修得します。専門分野の教育では、講義に加え、演習・実験・実習・ゼミナールなどの少人数教育の利点を生かした実践的な授業も多数設定されており、専門科目で修得した知識を自ら実践・確認し、より深く理解できるような教育内容となっています。
- ③ 学部教育の集大成として4年次で履修する「課題研究」は、配属された研究室において個々の課題の研究やゼミナールを中心とした密度の濃い専門教育を通して、先端的な研究を自ら実施することで、社会の要請に応える自然科学の専門知識と課題発見・問題解決の実践的な能力を獲得できる内容になっています。なお、理学部では、卒業要件単位の他に、「課題研究」を履修するために必要な単位数を設定しています。これは汎用性のある専門知識と論理的な知識の体系化ができてこそ、専門分野における未知の課題に挑戦できるからです。

学修評価の考え方

授業科目の成績評価については、その基準・方法を予め明示し、それらに基づいて学修成果を評価します。

正課外教育の考え方

学生が授業での学びを越えて自らの成長を実感できる正課外の活動を推奨します